

授 業 科 目 名	必修・ 選択別	単位数	対象 学年	学 期	曜・限	担 当 教 員
社会医学	必修	講義 7	3	3	月～金	山岡吉生 (環境・予防医学) 斉藤 功 (公衆衛生・疫学)

【科目名の英文】
Social Medicine

【授業の概要・到達目標】

- ・地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。
- ・国際社会における医療の現状と課題を理解し、実践するための基礎的素養を身に付ける。
- ・臨床現場での意思決定において、入手可能な最善の医学知見を用い、適切な意思決定を行うための方法を身に付ける。
- ・保健統計の意義と現状、疫学とその応用、疾病の予防について学ぶ。
- ・生活習慣（食生活を含む）とそのリスクについて学ぶ。
- ・社会と健康・疾病との関係を理解し、個体及び集団をとりまく環境諸要因の変化による個人の健康と社会生活への影響について学ぶ。
- ・地域医療・地域保健の在り方と現状及び課題を理解し、地域医療に貢献するための能力を獲得する。
- ・限られた医療資源の有効活用の視点を踏まえ、保健・医療・福祉・介護の制度の内容を学ぶ。
- ・国際保健の重要性について学ぶ。

具体的な到達目標	医学科ディプロマポリシーとの対応					
	1	2	3	4	5	6
1. わが国の社会における医療システムを理解し、それを説明できる	○				○	
2. 根拠に基づく医療を実践するための疫学の考え方を説明できる	○		○			○
3. 患者の社会的背景が健康に及ぼす機序を説明できる		○		○	○	
4. 公衆衛生学の基礎を理解し、健康と疾病の概念を理解できる。	○	○	○	○	○	○
5. 食品保健、学校保健、環境保健、産業保健、母子保健など我が国の保健政策を理解できる。	○		○	○	○	○
6. 感染症対策、予防医学、国際保健に関する国際的な動向を理解し、我が国における概要を説明することができる。	○	○	○	○	○	○
7. 医療体制および社会保障における我が国の政策を理解できる。	○		○	○	○	
8. 生命科学技術の発展が医療に与える影響について、利点・問題点を挙げるができる。	○		○	○		○

【授業の内容】

回数	授業項目	授業内容	担当講座・教員	方法
1	公衆衛生学総論	公衆衛生学の総論について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
2	疫学 (1) ～ (6)	疫学とその応用について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
3	児童福祉	児童福祉を中心に福祉について学ぶ	公衆衛生・疫学 (小野)	講義
4	地域保健・ヘルスプロモーション	地域保健・ヘルスプロモーションについて、大分県福祉保健部の講師から学ぶ	公衆衛生・疫学 (藤内)	講義
5	産業保健	産業保健について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
6	衛生行政・老人保健、介護保険	衛生行政・老人保健、介護保険について学ぶ	公衆衛生・疫学 (後藤)	講義
7	母子保健	母子保健について学ぶ	公衆衛生・疫学 (船越)	講義
8	精神保健	精神保健について概略を学ぶ	公衆衛生疫学 (土山)	講義
9	学校保健	学校保健全般について学ぶ	公衆衛生・疫学 (船越)	講義
10	歯科保健	歯科保健について歯科医の解説を聞く	公衆衛生・疫学 (戸高)	講義
11	成人保健	成人保健全般について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
12	保健所における危機管理対策	災害医療について、大分県内の保健所所長からその実態を学ぶ	公衆衛生・疫学 (池邊)	講義
13	栄養疫学	栄養疫学について学ぶ	公衆衛生・疫学 (船越)	講義
14	社会疫学	様々な要因と健康との関係について学ぶ	公衆衛生・疫学 (斉藤)	講義
15	社会と医療	貧困と疾病との関係について学ぶ	公衆衛生・疫学 (海老)	講義
16	衛生学総論 I	衛生学の総論を学ぶ	環境・予防医学 (山岡)	講義

17	衛生学総論Ⅱ	衛生学の総論を、ピロリ菌感染を例にして学ぶⅠ	環境・予防医学（山岡）	講義
18	衛生学総論Ⅲ	衛生学の総論を、ピロリ菌感染を例にして学ぶⅡ	環境・予防医学（山岡）	講義
19	衛生学総論Ⅳ	衛生学の総論を、ピロリ菌感染を例にして学ぶⅢ	環境・予防医学（山岡）	講義
20	衛生学総論Ⅴ	世界の衛生学の現状についての総論を学ぶ	環境・予防医学（山岡）	講義
21	衛生学総論Ⅵ	世界の衛生学の動向についてアジアを中心として学ぶ。本講義では英語での講義を併用する	環境・予防医学（山岡）	講義
22	衛生学総論Ⅶ	世界の衛生学の動向についてアフリカを中心として学ぶ。本講義では英語での講義を併用する	環境・予防医学（山岡）	講義
23	健康の概念	健康の概念を学ぶ	環境・予防医学（城戸）	講義
24	人口統計	人口と平均寿命と疾患の歴史	環境・予防医学（城戸）	講義
25	予防医学Ⅰ	ライフコースにわたるリスクと疾患を理解する	環境・予防医学（城戸）	講義
26	予防医学Ⅱ	Neglected Tropical Diseases と UHC について	環境・予防医学（城戸）	講義
27	社会保障制度	社会保障制度について概略を学ぶ	環境・予防医学（城戸）	講義
28	グローバルヘルス	グローバルヘルス、プラネタリーヘルスの概念を学ぶ	環境・予防医学（城戸）	講義
29	生命情報科学Ⅰ	ゲノム解読技術について学ぶ	環境・予防医学（鈴木）	講義
30	生命情報科学Ⅱ	ゲノム情報と精密医療の概論について学ぶ	環境・予防医学（鈴木）	講義
31	生命情報科学Ⅲ	生命科学における情報科学の応用、人工知能の概略を学ぶ	環境・予防医学（鈴木）	講義
32	行政における公衆衛生Ⅰ	公衆衛生行政の概略、集団検診	環境・予防医学（吉川）	講義
33	行政における公衆衛生Ⅱ	環境放射能	環境・予防医学（吉川）	講義
34	生活環境の保全	公害および環境基準を学ぶ	環境・予防医学（吉川）	講義
35	食品栄養	食事摂取基準を基に栄養学の基礎を学ぶ	環境・予防医学（山岡）	講義
36	食品衛生	食品衛生などの環境因子について学ぶ	環境・予防医学（吉川）	講義
37	行政における公衆衛生	行政における公衆衛生について、外部講師を招いて概説してもらう	環境・予防医学（吉川）	講義
38	環境生命科学Ⅰ	腸内細菌と健康について	環境・予防医学（松本）	講義
39	環境生命科学Ⅱ	国際協力と感染症問題	環境・予防医学（松本）	講義
40	感染症法・学校保健	感染症法・学校保健安全法の概要を学ぶ	環境・予防医学（松本）	講義
41	薬害・予防接種	国内の薬害事象、予防接種を理解する	環境・予防医学（松本）	講義

【アクティブラーニングの内容】

レポート課題に関しては、発表の機会を設け、その際に、学生たちが発表についての、評価、議論を行うようにします。できるだけ、授業は受け身ではなく、質疑応答を重視し、さらに実習では、自分でテーマを考える形式とします。

【その他の工夫】

グローバル化の中で、英語で考えることは重要であり、特に環境・予防医学の講義では、英語を取り入れた授業を行います。

【時間外学修の内容と時間の目安】

準備学修 次回の学習内容について、参考書等を用いて概要を把握する（15h）

事後学修 レポート課題（10h）

【教科書】

特になし

【参考書】

1 回目の授業の時に説明します

【成績評価方法及び評価の割合】

受講状況・レポート課題：30%、期末試験：70%を基準に総合して評価する。
成績評価（試験）は公衆衛生・疫学講座、環境・予防医学講座、それぞれの講座で行います。
欠席が40%を超える場合、期末試験の受験資格を与えません。詳細は1 回目の授業の時に話します。
小テスト：平均60点以上が必須。課題プリント：2枚以上の提出が不可欠。

【注意事項】

【備考】		
リンク		
	URL	
教員の実務経験の有無	○	
教員の実務経験	医師，産業医，社会医学系専門医・指導医，日本公衆衛生学会認定専門家	
教員以外で指導に関わる実務経験者の有無	○	
教員以外の指導に関わる実務経験者	医師，ケースワーカー，歯科医師，管理栄養士，環境行政職	
実務経験をいかした教育内容	教員は、実務経験を生かして公衆衛生に関する研究や保健指導等の活動を行っている。そこで、教員からは、公衆衛生を学ぶ上で必要な疫学や保健について教授し、知識・技術の習得を図る。教員以外の指導にかかわる実務経験者は、それぞれ公衆衛生活動の諸分野において、第一線で活躍している講師であり、これらの公衆衛生活動の実践例を教授する。	
授業形態	対面授業	